

令和3年度 学校評価(自己評価表) 米子北高等学校

建学の精神	基本的生活習慣(躰)の育成をとおして、人格陶冶をはかり、地域社会に貢献できる人材を養成する。	中長期目標	地域に貢献し、地域から応援してもらえる学校を目指す。
学校教育目標	【input】【thinking】【output】【reflection】4つの行動で、 ①対話力の向上を目指して社会で生きる力を身につける。 ②学習習慣の確立を目指して「学びに向かう力」を身につける。	今年度重点目標	1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着 2. 基本的生活習慣と規範意識の確立 3. 新しい生活様式を踏まえた安全・安心な学校生活空間 4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり 5. 特色ある教育の推進

評価項目	関連分掌	評価の具体項目	現状	具体目標	具体方策	経過・達成状況	自己評価		関係者評価	評価に対するコメント・改善方策
							中間	最終		
1. 主体的、継続的に学びに向かう姿勢の定着	教務	アクティブラーニング等で授業改革	各教科においてICTを活用したり、ALの視点を取り入れた授業を行っているが、まだ全体に浸透していない。	ICTを活用して知識・技能の速やかな定着を試み、思考力や主体的に学習に取り組む姿勢を育成するための時間を生み出す。	ICT環境が整っているコースにおいては、積極的にICTを活用した授業に取り組む。また、各教科で研究授業や参観授業を実施してもらう。次年度、生徒にタブレットを持たせることを想定し、どのような活用方法があるか視野を広げて					
	進学	進路指導の充実	普通科の各コース内で学力差が広がっている。各コースの実状に合わせた取り組みを段階的に計画立案している。	進路実現に向けて、自らが主体性を持って学習に取り組む、満足した進路を勝ち取れるようなサポートする。	普通コースにおいては、興味・関心・適性などから将来の自分をイメージさせ、そこに到達するために必要なプロセスを進学セミナーなどを通じて学ばせる。進学特進コースでは、課外授業や特別講習を通じて学力向上はかり、進路実現のための土台を					
	就職		就職意識の高揚を図るためのセミナー実施と外部機関と連携させ、最後まで粘り強い指導を行っている。	明確な志望動機を持たせ、進路実現のために生徒自ら計画的に取り組むことができるようにする。	就職セミナーにおいて、興味関心のある職種調べと自己の適性を知り、ミスマッチからくる早期離職をなくす。また、面接指導など実践的プログラムを実施する。					
	情報	学習の記録、振り返りの実施	・学習記録機能の利用がほとんど行われていない。 ・教科指導においては検査出題範囲の連絡での活用が見られるようになった。	・進路実現に向けた学習記録や振り返りが定着する。 ・コース毎の検査出題範囲を配信する。	・教務、進路部と連携しつつ、目的意識を持った活用を促す。 ・検査範囲のまとめはExcelシートの共有機能で教科担当から集めたものを利用する。					
2. 基本的生活習慣と規範意識の確立	教務	健康に留意し、規則正しい生活の実行	特別な理由以外の欠席・欠時等の生徒は少ないが、遅刻の多い生徒は目立つ傾向にある。	出欠入力状況を日々確認し、担任や教科担当が正確なデータを把握して生徒指導に活用する。	出欠入力状況を定期的に確認して、朝会連絡や紙面配布にて発信する。BLENDの未入力チェック機能の利用を学年部長に促し、定期的に入力状況を確認して頂く。					
	生徒指導	校内外で社会的規範意識の確立	人間関係のトラブルが多い。特にSNSを中心として、見えにくいところでの問題が多く、一年生の時より注意が必要である。	人の気持ちを考えて発言をし、行動をするよう心がけさせる。生徒自身が主体的に考えて行動できるようにさせる。	四月初旬における「ネットモラル教室」などのネット犯罪被害に対する意識を高めさせる。SNSにおける問題・トラブル防止を生徒に訴えかけ指導していく。					
3. 新しい生活様式を踏まえた安全・安心な学校生活空間	生徒支援	自尊感情の育成・人権を意識した他者理解	生活アンケートやHyper-QUIによる面談、教育相談から生徒の経過観察、働きかけを行っている。	自分も他人も大切に考え、安心できる学校生活を送ることができる。	生活アンケート内容の吟味、Hyper-QUI実施とその結果への早期対応、関係委員会での迅速な対応を行う。また職員研修を行うとともに、人権啓発ポスターの掲示も積極的にを行う。					
	環境美化	環境教育の推進	ゴミの分別や、教室を含め校内外の美化活動に努め、意識を高めている。	環境を意識し、物を大切に使用することや公共の場の美化に努める行動が校内外で無意識にとれるようになる。	ポスターの作成など啓発活動を通じ、ゴミの分別や、ゴミを減らしたり、再利用をするなど、環境を考えた行動がとれるようになる。					
	事務	施設の整備・点検	業者への委託による点検、学期ごとの安全点検(各教室)、職員による指摘等による対応。	施設の整備・点検により、校内の安全・生徒の安全確保。	業者委託の項目については、報告書等を確認し必要箇所について修繕を行う。職員による見回り・定期点検を実施し、危険箇所等を未然に把握し、修繕を行う。					
	教頭	コロナ禍での生活において感染予防への意識の確立	健康観察を継続する習慣が身につかない。土日の実施率は特に低いのが現状。また、公共の場でのマスク着用率が十分徹底されていない報告を度々受け	健康観察の意識づけとコロナ対策マナーの強化	BLENDでの健康観察入力チェック及び指導の徹底。特別活動(道徳)で、マナーについての学習をする。					
4. 地域に信頼される教育・地域の人が自慢できる学校づくり	総務	情報発信の強化・保護者との連携	昨年同様新型コロナウイルス感染拡大の影響で、外部の方の来校については慎重に判断しつつ、各種行事を行っている。特に振興会役員活動に協力いただき、新しい取り組みの形を模索しつつ、活性化を試みている。	情報発信と保護者参加の活動を工夫し実施することで、本校教育に理解いただき、協力体制を強化する。	ホームページやBLEND、マテコメールを利用し積極的な情報発信を行う。また、機関誌「北振」の発行、登校視察、講演会、各種説明会などを通して、本校教育について広くアピールする。					
	生徒会	地域との連携活動	校外美化活動、部活動単位での地域活動の参加や交流が行われている。	地域からの活動依頼に積極的に応え、共に、本校発案の活動に取り組んでいく。	地域における校外美化活動を生徒会主催や部活動の一貫として積極的に行っていく。					
	生徒指導	あいさつの励行と責任ある行動の実行	挨拶、交通マナー、服装指導などを目的として朝の門前指導を実施しているが、登下校の自転車の乗り方などの問題などがある。	登下校を中心として交通ルールを守り、事故のないよう心がけさせる。また地域の方々への挨拶など積極的に行うようにしていく。	毎朝、職員が登校指導(挨拶、交通マナー、服装指導)を実施。また年間二回の「高校生マナーアップ挨拶運動」を地域の方々・企業の方々・保護者・生徒と一緒に実施する。交通マナーについては日頃より話しをして					
5. 特色ある教育の推進	看護	医療・福祉機関との連携	感染予防に努め、福祉施設・病院等での実習をさせていただいた。本校の看護師国家試験の合格率はここ2年間は全国平均以上となっており、卒業生の多くが県内に就職することから、高い評価を得ている。	教員・生徒ともに感染予防対策を十分に行い、臨地実習が行えるように実習施設と連携を図る。看護師国家試験合格100%をめざす。	①看護科健康観察記録の徹底、正しいマスク着用・手洗い方法、体調不良時の対応について指導を行う。(知識と技術の定着) ②実習施設とよき細やかな連携、打ち合わせ、相談を密に行う。 ③模試後の学習会の活用についての指導を行う。					
	探究学習	地域連携・地域課題への取り組み	昨年度の振り返りから、系統立てた取り組みが必要と考え、1年から開始することとした。	与えられた課題(ミッション)の解決に向けて、グループ活動を通じて、アウトプットができるようになることを目標とする。	入学生に対し、地元大山の歴史と自然についてミッションを与え、探究学習の流れをつかませる。					

評価基準 A:十分に達成している B:概ね達成している C:取り組みはやや遅れている、または、成果は十分には出ていない D:より一層のまたは新たな方策が必要である